

# ハワイ観測所 早野 裕氏 第一回自然科学研究機構若手研究者賞受賞

家 正則 (TMT 推進室)



2012年6月10日、秋葉原のUDX THEATERにて、自然科学研究機構若手研究者授賞

式が開催され、ハワイ観測所助教の早野裕さんが第一回自然科学研究機構若手研究者賞を受賞されました。おめでとうございます。

同賞は、2009年11月19日に皇居前広場で執り行われた「天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民祝典」でEXILEの歌唱で披露された奉祝曲「太陽の国」のCDの収益を、若手研究者の支援にとエイベックス社および天皇陛下御即位二十年奉祝委員会から自然科学研究機構に寄付戴き、2011年度に創設されたものです。厳正な審査の結果、機構の5研究所から各一名の受賞者が決定されました。

受賞式に引き続いだ記念講演会「宇宙、生命、エネルギー：若手研究者による Rising Sun」では、早野さんが「すばる望遠補償光学で地上観測天文

学の限界に挑む」と題して、受賞対象となった研究内容を分かりやすく講演されました。会場には一般公募での参加者、大学生やスーパーサイエンスハイスクールの高校生が多数聴講し、講演終了後の懇談の場でも、早野さんの前には多くの方が集まり、会場が閉まるまで熱心な質問が続いていました。



講演後、多くの質問を受ける早野さん。

## 「すばる春の学校2012」報告

青木和光 (ハワイ観測所・TMT 推進室)

2012 05 29-31

NO.02  
ぶしらせ

恒例となってきた「すばる春の学校」が5月29日から31日に国立天文台三鷹キャンパスで開催されました。これは全国の学生にデータ解析の基礎からすばる望遠鏡での観測まで学んでもらい、将来の光赤外天文学を担う研究者の育成の一助となることをめざして開催されている企画です。これまでの主催者であった国立天文台ハワイ観測所（すばる望遠鏡）、光赤外研究部、天文データセンターに、今回は太陽系外惑星探査プロジェクト室も加わってデータ解析講習とすばる望遠鏡での観測成果の紹介を担ってもらいま

した。

例年、春の学校は競争率が高くなる傾向がありますが、今回もデータ解析講習には26人もの応募がありました。そして選抜の結果、学部2年から4年および修士課程1年の10人に受講してもらいました。また、今回はデータ解析以外のところに飛び入りで複数人参加がありました。データ解析講習では、MOIRCS（近赤外撮像）で得られた銀河団のデータと、HDS（可視分光）で得られた土星のスペクトルデータの解析を2つの班にわかれ体験してもらいました。

コンピュータには馴染んでいる学生が多くなっているとはいえ、データ解析で主に用いられるUnixやデータ解析のソフト（今回はIRAF）は初めてという学生も多く、一通りの処理を終えて科学的な意味を読み取る手前までのデータに到達するには、短期間の講習ではやはり難しい所があります。しかし、学生にはそのステップのひとつひとつがすべて力になるということで、本質的なところに絞ってデータ処理の背後にある考え方を理解してもらうことを重視して取り組んでもらいました。

データ解析講習以外では、すばる望遠鏡や次世代望遠鏡TMTについて、すばる望遠鏡で得られている観測成果について、それから観測研究者や大学院生の研究生活について、講義と議論を行いました。今年の参加者は全般に元気がよく、講義では最初から多数の質問が出たり、懇親会では遅くまでスタッフをつかまえて質問をしたりする様子がみられました。この学校をひとつのステップに、これからも意欲的に研究に取り組んでいく若手研究者が育っていくことを願っています。



データ解析講習に先立ち、アーカイブデータの活用方法（SMOKAの利用方法）の講習も行われました。